

病棟スタッフの退院支援に関する行動変容を目的とした関わり
～多職種カンファレンスの充実にむけて～

田中優子（東入院棟7階）

I. はじめに

当院は二次救急告示病院として、私が所属する外科病棟では悪性疾患、イレウスや消化管穿孔、がん性疼痛に対するペインコントロールなど様々な疾患を抱えた患者が入院してきている。患者の社会背景も多様であり、少子高齢化に伴う高齢者の独居や核家族、家族関係の複雑さからのサポート不足など、個々に合わせた退院支援が求められている。患者・家族が望んでも希望に添えないこともあり、日々退院支援の難しさ・ジレンマを感じている。その中でスムーズな退院支援を行うには、多職種との情報共有と連携が大切であり、今年度の看護部目標や病棟目標でも取り組みが掲げられている。

現在病棟では毎週火曜日に病棟看護師・栄養士・リハビリスタッフ・腎移植医師による合同カンファレンスの開催。水曜日に病棟看護師・病棟担当の入退院支援看護師による退院支援カンファレンスを開催している。病棟看護師は入院時に退院支援の第一段階アセスメントを実施し、必要な場合は相談依頼を行っている。しかし状態変化時は病棟担当者と直接やり取りをすることが多く、アセスメントが記録として残っていない現状がある。受け持ち看護師以外が担当をすると状況が把握しづらく、カンファレンスが情報提供主体となっている印象があった。カンファレンスの更なる活性化が患者・家族の求める介入の提供に繋がるのではないかと考え、今回のリーダーシップ研修に取り組んだ。

II. 役割・立ち位置

私は看護師経験 11 年目であり、現在の外科病棟に所属して 4 年目である。チームのサブリーダー、今年度より入院・退院支援看護委員として病棟の退院調整に関わる役割を担っている。またラダーⅢ取得を目指しており、今回の退院支援への取り組みと共に日頃の看護観についても振り返りたいと考え、看護倫理の研修にも参加することとした。

III. 目標

1. 病棟スタッフが他者からの働きかけにより多職種・病棟カンファレンスにて受け持ち患者について話し合うことができる

2. 病棟スタッフが退院支援に介入した事例を振り返り、多職種カンファレンスの効果を実感することができる

IV. 実施・結果

<計画>

8月：病棟スタッフへ現状把握のためのアンケートを実施

9月・10月：アンケートを基にした介入を実施

11月：介入評価のアンケートを実施

<実施と結果>

8月：病棟スタッフの退院支援に対する考えを知るためにアンケート調査を実施。詳細は添付資料参照。

アンケート回収率 93%

看護師経験年数：1年目～22年目

1. 現在実施している退院支援への達成感

- ・できていると思う：8%
- ・まあまあできていると思う：76%
- ・あまりできていないと思う 16%
- ・できていないと思う：0%

2. できていると評価した項目

- ・退院支援看護師との連携：92%
- ・カンファレンスの活用：72%
- ・電子カルテでの情報共有：68%
- ・医師との連携：52%

3. 多職種カンファレンス活用に対しての実感

- ・できていると思う：24%
- ・まあまあできていると思う：72%
- ・あまりできていないと思う：4%
- ・できていないと思う：0%

4. 多職種とのカンファレンスの活用内容

「気になる患者について情報提供をしている」が 68%と最も多く、その他の項目については 30～40%とあまり違いはなかった。

5. カンファレンスで誰と、どんな内容を話し合えると良いと思うか（意見が多かったものを記載。以下の項目も同様）

- ・患者に関わる全ての職種との情報共有・介入内容の検討
- ・それぞれの職種が目指している目標・計画の共有
- ・主治医との治療方針についての確認と共有
- ・患者の今後の介入についての多職種での検討

6. 日頃からどのような情報が必要と考えるか

・入院前の患者情報（生活スタイル、ADL、家族背景など）

・患者・家族の意向や希望
・日々変化する患者・家族の考えや思い

7. 退院支援に関して困難に感じていること

（2年目以上の看護師）

・退院調整へのタイムリーな取りかかり
・患者・家族の意見の違いから調整が進まないこと
・未告知の状態で緩和面談の準備を進めること
・家族背景が複雑な為、サポート体制の組み立てが難しいこと
・退院支援に関する記録の場所が統一されていないこと
・退院支援に関わる情報が不足していること
・受け持ち患者以外の進捗状況が分かりづらく、カンファレンスで提案できていないこと

（新人看護師）

・患者・家族へどのような関わりをしたら良いのかイメージができないこと

以上のアンケート結果より、病棟スタッフの96%が多職種カンファレンスを活用できていると評価している。しかし情報提供が主体の場となっており、さらに話し合いができる場としていきたいという期待が捉えられた。これより2年目以上の看護師は現状に問題意識はあるが、事前の情報不足や言語化が難しいことが課題として考えられた。そこで事前に病棟スタッフで患者目標の確認や情報整理を行う機会を設けると、多職種カンファレンスに参加しやすいのではないかと考えた。また活動内容については意図的にグループ内での成功した介入事例の振り返りを行うこととした。新人看護師には活動内容を知ってもらい、グループ全体としては自分たちの退院支援の取り組みについて達成感を感じてもらい、退院支援へ前向きに取り組めることを狙いとした。

9月以降：アンケート結果を掲示し、リーダー看護師・グループリーダー・サブリーダーへ協力を依頼した。日勤帯のカンファレンス内では、状態の変化があった患者の情報提供や介入の見直しが必要そうである患者を、日勤のリーダー看護師が受け持ち看護師へ声掛けをし、カンファレンスで話し合いを実施していった。また毎週退院支援のアセスメント実施状況を確認し、入院経過が長くなってきている患者や術後1週間経過する患者など2次アセスメントが必要な患者については、掲示・声掛けを実施した。介入前は0%であった2次アセスメントの実施

率は徐々に増加してきている。

事例検討はグループ毎にそれぞれ事例を選定してもらい、グループ会の中で振り返りを行ってもらった。また退院調整困難な事例について受け持ち看護師に声掛けをし、病棟カンファレンスで倫理的内容を含めて話し合いを行った。内容は患者の社会的背景を知り、何を大切に考え生活しているのか、私たちが日ごろ行っている看護は何を大切にしようとしているのかなど、改めて考え、介入方法を検討する機会となった。新人看護師をはじめ、様々な経験年数のスタッフに参加してもらうことができ、実施後のインタビューでは以下のような意見が聞かれた。

（2年目以上の看護師）

・日中のカンファレンスでは看護観について話し合う機会はあまりないので、良い機会となった

・今後もカンファレンスの機会を持つようにしていきたい

・新人看護師が退院支援について色々な考えを持って関わっていることが分かり良かった

（新人看護師）

・退院支援がどんなものか分かった

・先輩看護師と退院支援について話す機会が増えた

11月：介入後のアンケート調査を実施

<結果>

1. 現在実施している退院支援への達成感

・できていると思う：10%
・まあまあできていると思う 85%
・あまりできていないと思う：5%
・できていないと思う：0%

2. 多職種カンファレンスの活用に対する実感

・できていると思う：35%
・まあまあできていると思う：55%
・あまりできていないと思う：10%
・できていないと思う：0%

3. 病棟・多職種カンファレンスに意識的に参加していると思うか

・参加できていると思う：30%
・まあまあ参加できていると思う：60%
・あまり参加できていないと思う：10%
・参加できていないと思う：0%

4. 今年度、患者の情報提供や患者カンファレンスを実施したか

・実施した：85%
・実施していない：15%（うち1名は不十分と評価）

5. 昨年より実施回数は増えているか（母数は新

人看護師を除く)

- ・増えた：55%
- ・変わらない：45%

6.カンファレンスの実施回数が増えた要因は何と思うか(自由回答)

- ・退院支援や患者状態・生活背景などに目を向けられるようになった
 - ・気になる患者について、カンファレンスにかけようという考えができるようになってきた
 - ・スタッフの意識が高まった
 - ・カンファレンスしやすいスタッフの関係性ができた
 - ・カンファレンスが習慣づいたと思う
 - ・日々お互いに働きかけをするようになった
 - ・カンファレンスを行うことで、より退院支援を意識し、受け持ち患者以外の患者にも目を向けやすくなった
 - ・相談しやすい場がある
 - ・病棟担当者と連携する機会が増えた
- 7.退院支援に介入した事例を振り返り、合同カンファレンスの効果を実感しているか
- ・実感できている：95%
 - ・実感できていない5%

V. 評価

目標1に対しては、日々のリーダー看護師がカンファレンスの機会を確保・意図的な受け持ち看護師への声掛けをしたことにより85%のスタッフで達成することが出来た。また退院支援のアセスメントの再評価実施についても表示や声掛けを行ったことで、スタッフ一人一人の退院支援に対して考える機会となり、結果として意識付けに繋がったと考える。

目標2に対して、グループ内での事例の振り返りでは、先輩看護師の考えや活動内容を知ることによって退院支援について新人看護師は学びとなり、新人指導を行う3年目以上の看護師は新人の考えや患者への思いを聞くことで成長を実感でき、自分たちの指導の効果を感じることができた。成功体験を振り返ることは自己効力感を高めることへ繋がり、入退院支援への取り組みにも意欲的に変化していったと考える。お互いの考えや思いを知りコミュニケーションを図る機会が増えたことでPNSマインドにも良い影響があったのではないかと考える。倫理的視点を踏まえた病棟全体での事例検討では、日頃の看護観について振り返ることができ、改めて自分自身が日頃なにを大切に患者・家族と関わっているのか、患者・家族の求めるものとはどんなものなのかについて考えることができ

た。介入後のアンケートからも取り組み内容には効果があったと考える。介入後の病棟スタッフへのインタビューでも、以前より退院支援への取り組みを計画的にしようと意識して関わっているという意見も聞かれている。

今回の取り組みは病棟スタッフのみであり、他職種への介入は行っていない。よって多職種カンファレンスに効果があったかは評価ができないが、今後は多職種へもカンファレンスに対しての考えや意見などを聴取し、患者に関わるスタッフみんなで話し合いができるように取り組みを行っていききたい。

VI. おわりに

今回、委員会の活動を通してリーダーシップとマネジメントについて実践し、現状分析と具体的な計画の立案、他者への説明能力、コミュニケーションスキルが大切であると学んだ。研修の最初の頃は漠然とした目標を掲げて取り組んでいたが、具体性に欠け先輩スタッフや研修メンバーに相談することで方向性を見つかることができた。具体的な取り組みが分かることで、他者は何に取り組もうとしているのかが分かり、理解してもらうことで自分自身も依頼がし易くなったと感じている。今まで依頼をすることは他者へ負担をかけるような気がしていたが、病棟全体で取り組むべき内容であるということをも自分自身が再認識することで他者へ説明・協力を依頼する姿勢へと変化していったと考える。病棟スタッフは個々に仕事を抱えている中でも協力的であり、所属する病棟の風土も取り組みには大きく影響してくるのだと感じた。スタッフ一人一人を信頼し取り組むことの大切さも学ぶことができた。リーダーシップ・マネジメントとは状況に応じて様々な発揮の仕方があり今回の研修だけでは習得できないが、今後も先輩スタッフから学びを深め、自己研鑽を続けていくことで発揮していけるように取り組んでいきたいと考える。

VII. 参考文献

- 1) 井部俊子編集：実践家のリーダーシップ 現場を変える、看護が変わる、ライフサポート社、2009
- 2) 赤塚静子：看護リーダーシップ 2-看護チーム活動とリーダーシップ、看護の科学社、2016
- 3) 篠田道子編集：ナースのための退院支援・調整 第2版(院内チームと地域連携のシステムづくり)、株式会社日本看護協会出版会、2017

入退院支援看護委員より

今年度は病棟目標である「患者・家族の意志を尊重したチーム医療の提供と継続看護の実施」に向けて、カンファレンスの充実をはかりたいと考えています。

そこで皆さんの退院支援に対する考えを知りたく、アンケートにご協力をお願いいたします。今後アンケート結果を用いて、カンファレンス内容を検討していきたいと思えます。

看護師歴（ ）年目

1. 現在、病棟で行っている退院支援への関わりはできていると思えますか？
 - 1) できていると思う
 - 2) まあまあできていると思う
 - 3) あまりできていないと思う
 - 4) できていないと思う

2. どの点が出来ている、できていないと思えますか？できている項目に○、できていない項目に×をつけて下さい。
 - 1) 医師との連携
 - 2) カンファレンスの活用
 - 3) 電子カルテでの情報共有
 - 4) 保険制度についてのスタッフの知識
 - 5) 退院調整の取りかかりのタイミング
 - 6) 退院支援徳永看護師との連携

3. 火曜日・水曜日に行っている他職種とのカンファレンスは活用できていると思えますか？
 - 1) できていると思う
 - 2) まあまあできていると思う
 - 3) あまりできていないと思う
 - 4) できていないと思う

4. 他職種とのカンファレンスをどのように活用していますか？
 - 1) 担当患者の介入について、みんなで検討をしている
 - 2) 気になる患者について情報提供をしている
 - 3) 他職種から患者の進捗状況を聞いている
 - 4) お互いに連携が図れるように、意見交換をしている

5. カンファレンス内で、誰と、どのような内容を話し合えると良いと思えますか？
【

6. 質問5のような内容を話し合う為に日頃からどのような情報が必要だと思えますか？
【

7. 退院支援に関して困難だと感じていることはありますか？あれば内容を教えて下さい。
【

アンケートへのご協力、ありがとうございました。